

第1回牧野植物園磨き上げ整備基本構想検討委員会議事録

日時：平成28年8月5日（金）13:00～17:00

場所：高知県立牧野植物園 本館 映像ホール

出席者：[委員] 邑田委員長、受田副委員長、井上委員、海老塚委員、

大野委員、川崎委員、北村委員、竹内委員、

テリー委員、中島委員、村上委員、安田委員（12名）

[オブザーバー] 高知県観光政策課、高知県公園下水道課、高知県文化財課（4名）

[指定管理者] 公益財団法人高知県牧野記念財団（7名）

[事務局] 高知県林業振興・環境部長、高知県林業振興・環境部 副部長（総括）、

環境共生課（9名）

1 開会

2 高知県林業振興・環境部長あいさつ

3 委員の紹介

- ・委員紹介及び辞令書の配布
- ・出席しているオブザーバー、指定管理者及び事務局の紹介
- ・配布資料の確認
- ・安田委員からピンバッチの紹介（高知家ポジティブピンバッチ）
- ・「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、審議内容をホームページで公開することの了承を得る。

4 検討委員会の設置及び運営

- ・事務局から設置要綱について説明

<議題>

(1) 委員長及び副委員長の選任

- ・委員の互選により委員長に邑田委員が、委員長の指名により副委員長に受田委員及び沢登委員が選任された。

(2) 牧野植物園の取組み及び課題

- ・指定管理者から【資料1】を使用して牧野植物園の取組みについて説明
- ・事務局から【資料2】を使用して牧野植物園の課題について説明

(A 委員)

磨き上げという言葉の聞こえはいいが、主たる目的は入園者増加なのか、植物園としての機能充実なのか、何を磨き上げるのかははっきりさせてほしい。平成 26 年から平成 27 年の入園者増加については素晴らしいが、ひとえに植物園の努力だけでは成り立たない。20 万人来たときは龍馬伝の影響で高知への観光客が増えていたことが背景にある。

来園者に対して、植物を目的とさせるのか、フラワーガーデンといった観光向けにするのかははっきりしないと入園者増加について考えにくい。そういった点について県はどう考えているか。

(事務局：内村課長)

牧野植物園は博物館機能も備えながら、研究、産業振興、教育の分野にも大きく貢献している施設である。また、高知県観光の 4 番バッターとして入園者増加も期待されている。

A 委員のおっしゃるとおり、目的を絞り込む必要がある。来園者数 20 万人のときには龍馬伝の影響が大きく、県も観光に力を入れており、牧野植物園も花絵巻を開催していた。資料 2 の年度別状況を見ると、20 年度をピークに右肩下がりである。花皿鉢も花絵巻のシリーズとして 5 年間やってきたが、それも同様に右肩下がり。

牧野記念財団と県との話し合いにより、牧野にある 3,000 種の植物を生かすことを磨き上げのベースとして考えていくつもりである。

(3) 施設見学

- ・ 牧野植物園内を指定管理者が案内

(4) 基本構想策定の進め方

- ・ 事務局より【資料 3】を使用して基本構想策定の進め方について説明

(邑田委員長)

見学前の質問にもあったが、課題がはっきりしていないと委員会でどういったことを話し合うのか難しいという意見があった。牧野植物園の課題について事務局より説明があったが、課題というと何か問題があるのではと捉えられがちだが、テーマや整備の項目という意味合いだと思われる。悪いからそれを何とかするというのではなく、それぞれの項目をどうやって整備していくか。また、その項目自体もふさわしいものであるかどうかはこの委員会でコメントしていくことになるかと思われる。全体としてどういった効果があればよいのかを個人的に考えてみたが、ここは県の施設であり、県民の税金で成り立っているため、牧野植物園に直接関係のある方の検証や周辺のみなさまの支援がなければいけない。最終的には税金を払っている方一人ひとりが OK と言わないと議会が承認することはできない。そこで、この委員会で何かを提案する、あるいは出た意見が議会や県民の皆様

の理解に役立つ説明になることが一番の効果だと思う。

1時間程度、園内を見た中で、「これはひどい。」「こんなものはないほうがよい。」という意見はなかったと思うが、よいものだからといってそれを維持するためにはどんどん老朽化していくし、人も変わっていくので、維持するための努力が必要だということはお金の裏付けがないとできないことであり、それに対してこれは非常によかった、だからこういった形でこれは維持していったらよいというコメントも整備の支援になるのではないか。大まかな考えとして、個人的な意見ではあるが、中を整備することは植物園の地力をつけることであり、これは木を育てるのと一緒に時間がかかること。すぐには理解されにくいですが、アピールできるような実績をつくるのが大事である。

もうひとつは五台山の中にある施設なので、ここの中だけで努力するよりは近隣も含めて五台山全体で支援体制をつくり、お互いにより方向に進むことも非常に重要なことではないか。

この委員会での構想はコンサルの会社が具体案を整理してくれるとのこと。ここでは私たちは言いたいことを言って、次の委員会までに業者がこれはできそうにないとか、お金がかかりすぎるとか、これはこうやったらいいんじゃないかといったことも含めて切り分けて整理してもらって、次の委員会にそれを見て、次の段階に進めるということやっていく。細かいことを言うよりは、最初の段階では理想を追求していただきたい。

順番に一人5分程度で意見を述べていただき、一通り終わった後に検討を行いたい。

(B 委員)

3本柱の憩いの部分について意見を述べたい。課題の資料にもある通り、入園者数20万人以上を目指すとして書いている。あと4万人増やさなければいけないが、その目標に向かって、16万人を維持しつつ4万人をプラスする、もしくは人を全部変えてでもいいから20万人にするといった、どうやっていくのか。1つの明確な目標が数字であることは分かりやすい。広告の教科書の手本に則って考えると、増やす4万人がどういったターゲットなのか、来園者が20万人入れ替わるといった可能性も含めて、戦略ターゲットをどうするのが最初の課題。

モニター調査でオン・オフシーズンがあったが、もっと細かい分析が必要である。例えば県内の東や西、嶺北といった地域に細分化してリサーチする。幡多の人は遠いから来ないのか、それとも知らないから来ないのか。次に県外において四国3県なのか、大阪なのか、東京なのか、海外においては中国を対象とするのか。4万人増やすのに全てのリサーチが必要か、それとも県内に投資をしたらいいのかなどがある。

2つ目に投資してリターンできる確率論の話を考えること。

3つ目は戦略のコンセプトを一つに絞ること。コマーシャルといった、15秒で人を振り向かせなければならないとしたら、牧野植物園は何をコンセプトとするのか。それはターゲットによって違うかもしれない。魅力が多く、情報量がありすぎると人は見てくれない。

コンセプトを一つに絞るといのはやらなければいけないこと。そのためには、戦略ターゲットは誰なのか、投資効率がよいのは誰なのか、戦略コンセプトを一つに絞ってメディアとお金を使ってリターンを稼ぐ。コンサルの方にシナリオを描いてもらおうと第一段階として明確になる。

個人的な見解を述べると、植物園としての魅力はあまり感じなかった。魅力に思ったのは標本をつくっている人の顔、秘蔵の本、漢方薬の部屋。USP というどこにもない魅力、牧野ならば植物園らしくない魅力が超魅力というのが戦略のコンセプトを考えるうえでのヒントになるだろう。

(C 委員)

研究の視点からコメントさせていただきたい。牧野は高知県の植物誌を発刊しており、内容も非常によくできている。誰も行けていなかったミャンマーの調査も進めており、特殊性の高いこともやっている。生薬の研究についても力を入れており独自性が高い。しかし、独自性の高い研究を行っている一方、それが牧野植物園の展示などに生かされている部分が多く見えてこない。基礎的、応用的な研究で成果があればそれを発信するだけでも面白い。そこで明らかになったことが展示に生かされるとよい。

また、保全に関する直接的な活動はされているのか。

(指定管理者：藤川課長)

高知県の希少種のモニタリングやシカの食害に対する保護対策やアドバイスも行っている。

(C 委員)

高知県の野生植物の現状などの情報は集約されているのか。

(指定管理者：藤川課長)

されている。

(C 委員)

集客につながるかわからないが、そういった情報をもっと来園者に発信していけばよいのではないかと。

独自性の高い研究もしつつ、標本を地道につくるのも大事であるが、お客さんに中々アピールできていない。作業をアピールするのもよいし、首都大学東京の牧野標本館では、牧野博士の標本をいろんな所に展示用に貸し出している。標本についても同じくどんどん見せていけばいい。首都大学東京に重複標本がたくさんあるので、展示に使ってもよいし、そのための協力もしていきたい。

(D 委員)

福祉の分野から意見を述べさせていただきたい。平成 25 年に生活困窮者自立支援法が制定され、高知市社会福祉協議会では、生活困窮者の支援を行っている。その方たちは、牧野植物園に来たことがない、あるいは、来たくても来ることができない。生活困窮の方たちに牧野植物園の緑やすばらしい空間を見せてあげたい、空気を吸わせてあげたいというのが率直な気持ちである。そこで生活困窮の方たちとこの空間を結び付ける工夫はできないものかと思った。

反対の発想で生活困窮の方のなかには、働きたくても働けない、長時間働けない方がいるが、植物の専門知識を必要としないところで、働いてもらうことはできないか。それが外部から見れば地域貢献につながるといった牧野植物園の役割があるのではないか。

(E 委員)

1 つ目に外国の観光客にとって観光スポットのバリューがあるか。2 つ目はホスピタリティの標準化。例えばレストランのメニューである。最後はマーケティング。

観光スポットのファシリティにおいて、B 委員と同じくバリュー・プロポジションが大事と考える。

海外の場合、キューガーデンは研究と観光の両方をやっている。観光をやる目的は、運転資金が必要だから。牧野植物園もそうだと思う。

ユーザー（観光客）は研究者ではないので、細かいことは分からない。もっと目立つポイントでマーケティングをしないといけない。温室にあっためずらしい植物（13年に1回花が咲く等）があれば外国人も見たいと思う。

中国では古書がほとんど焼失しているため、中国人にとって、本物の古い本が見られることはとても魅力的である。

漢方において、日本は第二次世界大戦後多くの情報を集めていたことから日本の漢方は中国の漢方に一番近いと思うし信頼性も高い。漢方薬のイベントを文化的にある国にターゲットを絞ってイベントをやると面白いし、研究分野の人たちも集まると思う。

研究分野においては、映像ホールに 100 名は入ると思われるので、1 週間程度のコンベンションをすれば海外にもアピールできるし、経済効果も期待できる。口コミも広がる。

(F 委員)

99 年のリニューアルは牧野植物園が生まれ変わるようなものであったが、今回のリニューアルについて、知事はいったいどれほどの覚悟を持って予算を出すのか、どれくらいの規模を考えているのか、田所部長にお聞きしたい。我々の考えるプランが、それに応じて単なる動線の整備に終わるのか、あるいは大胆なものを提案できるのかに関わってくる。

(事務局：田所部長)

知事からは「世界に誇れる牧野植物園」にしてもらいたいと言われているため、園地の拡張も含めて、様々な角度から全体的な磨き上げを検討していただきたい。

(F 委員)

どう世界に誇りたいのか。

(事務局：田所部長)

まずは牧野植物園の持つポテンシャルを最大限に引き出して、多くの方々にそれらに触れていただきたい。見て感じていただきたい。牧野博士の功績も知っていただきたい。憩いの場という面では、家族連れに来ていただきたい。子どもたちの学習の場にもなり、第2の牧野博士が高知から出ればとも考えている。

(F 委員)

99年のリニューアルがいくらかかったのか分からないが、今回、金額で言うならばどれくらいだというイメージはあるか。

(事務局：田所部長)

金額的なイメージは持っていない。

(F 委員)

アイデア次第ということか。

(事務局：田所部長)

その通り。

(F 委員)

仕事で歩き遍路をしており、竹林寺にも登った。88ヶ所の中でも竹林寺はベスト5に入る素晴らしい寺であることは間違いない。さらに、牧野植物園に隣接しているというのは特異である。今回、提案したいのはここにもう少し滞在できないかということ。宿泊施設の話になるが、牧野植物園は宿坊の跡地であることもあり、新しい宿坊を作る構想があってもよいのではないか。

(A 委員)

「ヤマトグサ」が最近発刊されたが、読んでみたところ植物園の取組みや研究成果がよ

くわかる。よい取組みなので、是非継続して欲しい。

人を集めることについては、県外の小中学生が牧野植物園に来て、五台山のどこかに宿泊施設をつくって滞在してもらい、ときにはお遍路さんにも利用していただける施設をつくっていただきたい。また、先日の評議員会ではNHKの大河ドラマで牧野博士を取り上げてもらってはどうかという意見が出ていた。

一般の人が読んで面白い、牧野博士を取り上げた小説が書かれたらよいのではないか。また、高知県は漫画文化があるので、漫画でとりあげてもらえるといろんな方に知っていただき来園者が増えるのではないか。牧野博士の人物像を描いたものも面白い。そういった形でアピールできればよい。

平成 22 年度の龍馬伝当時のことを踏まえると、高知県の観光の宣伝の仕方は他県に劣るかと思われる。牧野植物園だけで宣伝するのではなく、県全体でもっと宣伝すべきではないか。

(G 委員)

学校教育の視点から意見を述べたい。牧野磨き上げ整備のスケジュールと同じタイミングで、日本の教育も転換期を迎える。教科書は 10 年に 1 度大幅に変わるが、今まさに文部科学省が次の教科書の内容を考えているところ。平成 32 年に新学習指導要領が改訂され、新しい日本の教育がスタートをする。これまでの机に座っての学習から、外に出て、専門家や地元の方の話を聞いて連携しながら教育を展開していくのが今回の主旨。それに向けていろんな準備をするなかで、平成 30 年から 2 年の先行実践の期間がある。新学習指導要領は、主体的な、探究的な深い学びを自らがやっていける子供に育てるという内容なので、これからの学校現場は、どうすれば子供たちが自らで動き、考え、さまざまな意見を調整しながら、新しいものに挑戦し、判断して伸びていくのか、そういった教育を今からやろうとしている。

理科においては、自然への気付きから自分なりに課題意識をもって解決していくことを学んでいく。是非、牧野植物園には、主体的に考えられる場面を作っていただき、そこに行けば何か気付きが得られて、子どもたちなりに課題を発見し学校に持ち帰り、植物園の先生方にわからないことを教えていただくなどの連携を取っていただき、課題を解決していける場になればよいと思う。

教育はお金にはならないが、子どもは未来の社会の担い手である。第 2 の牧野博士の出現を、こつこつと、手間暇かけながら子どもたちを育てていきたい。

教員からの具体的な意見を 2 点紹介したい。

1 つ目は、今の芝生広場は狭いためお弁当を広げて走り回れる広々とした広場があると良いということ。自由にのびのびとできて、木陰のある広場があったらいいと思う。

2 つ目は、触る、臭いをかぐだけでなく、葉をちぎったり、食べたりできるエリアがあると良いということ。他の公園もそうだが、ちぎったりすることを普段はしてはいけない

ので、それができるスペースがあると子どもたちは目をらんらんと輝かせながら遊べる。
教師としては、本物との出会い、自然への気付きを子どもの教育に生かしていきたい。

(H 委員)

五台山北側の絶海地区等の農地の管理をしている。冒頭に邑田委員長からリニューアルには地域の方の協力が必要という話があったが、私も過去の牧野植物園拡張時の地権者であり、協力もしてきた。私の所属する高須地区の大谷、大島、長江の3地区が植物園のちょうど北側で排水が流れてくる。本館と展示館を建てた平成11年の高知豪雨の時に、牧野植物園と地区がぎくしゃくしたことがあった。今後、リニューアルを進めるにあたっては、地区の協力が必要であるということを踏まえて計画を進めていただきたい。

また、地権者としては、植物園敷地の東側の開発が進んでいないことは非常に残念である。今回のリニューアルでそこまで広げるかどうかかわからないが、今後はそこも考えていただきたい。

地図を見れば分かるように、用地買収に反対された方もおり、県の用地になっていないところがあるが、今後どのように協力をしていただくのかということも含め、できることは協力していきたい。

長江圃場を高台移転する構想があるということだが、個人的な意見であるが、オランダ型のハウスでは植物を高いところに置いて、高所作業台で作業をしている。重要な植物は別として、高所作業台を取り入れることも考えたら良いのではないかと思う。

(I 委員)

五台山は歴史の山でもあり、信仰の山でもある。見晴らしも良く景勝の地でもあるが、私は、「いのち」を見つめる場所だと思う。寺は人の生き死にに触れ、想いを寄せる場所。牧野植物園は植物を通じて「いのち」の不思議に出会う場所。「いのち」というのはこれから大事なテーマなので、五台山公園、竹林寺、牧野植物園が一体となって自分というものを見つめなおす「いのち」の不思議を見つめ想いを寄せる場所になったらよいのではないかと思う。

宿泊施設をとという意見があったが、世界中から若者がやって来て、寝泊りをしながら語り明かすもよし、そんな場所が五台山にあったらよい。

牧野植物園をずっと見つめてきたが、リニューアル以降の発展は目覚ましいものがある。先日のショクダイオオコンニャクの開花時は園芸と広報の職員の方の勝利。大型クルーズ船の乗客にできるだけ五台山に来ていただこうと、職員同士が連携をしてありとあらゆる知恵を絞って集客を頑張っている。その想いがひしひしと伝わってくる。

来園者20万人となるとハードの整備もどうしても必要となってくると思う。駐車場が狭く、GWや春秋のシーズンにはお遍路さんや参拝者とかちあって渋滞になる。駐車できないため、牧野植物園に行くのをあきらめて帰る方もおり、申し訳ないと思っている。駐車

場の整備は急務だと思う。

かつてロープウェイがあったが、今もしあれば、エコでちょうどよい。山を削って駐車場を整備するのか、長江圃場を駐車場にしてロープウェイで登ってもらうという発想もあるのかもしれない。

駐車場の入口も狭隘である。車のすれ違いができず、車、大型バス、参拝者、入園者が入り乱れており、将来事故になるのではないかと心配している。ここの整備も急務かと思う。

標本庫、牧野文庫はとても素晴らしい。見られないのはとても残念。そこに携わっている人は魅力的であり、裏方の魅力が伝わってくる植物園であってほしいと思う。

植物園南園は、2メートルも掘れば鎌倉時代の竹林寺の遺構がでてくる歴史のある地。結網山もいわれや歴史のある山、これらの他の植物園にない魅力を生かしながら整備していただきたい。

(J 委員)

平成11年のリニューアルにおいて、どういうメンバーでどういう議論をしたのか。大事なことはその時積み残した課題、出てきた英知やアイデアのなかで今反映できるものがあればそれをしっかり検証すべきというのが1点。

全体の話になるが、牧野の理事でありながら、本日のようなお宝に接したのは初めてである。その価値のすごさに恐れおののいている。他の部分も含めて、ポテンシャルという言葉が使われているが、価値が潜在的に眠っている、ナレッジマネジメント的に言うと暗黙知の塊でまだ来ているという印象がある。これをどうやって形式知に置き換えていくか、持っている価値を最大化するのがこの検討委員会のミッションであって、この言葉を磨き上げとっていいのかというのが腹落ちしない。玉を磨くのであれば玉の大きさは変わらないので、単なる相対的輝きを増すだけである。本当は玉自体を大きくして、さらに存在感を増す。そのことが世界に誇れるという表現になるのではないかと思うので、入口の部分を考え直した方がいいのではないか。もしかすると委員会の名称を変えたらよいのではないかというのが1点。

水上園長から3つのミッションと取り組みの説明があり、内村課長から3つに分けて課題の説明があった。教育、研究、社会貢献を議論する大学とほとんど同じ。大学の場合は、研究があってそこで進化しながら教育を施し、その全体を社会貢献にフィードバックするという発想をとる。研究型植物園であり、教育普及を通じて第2の牧野博士を育てようという人材育成が園地にあるとすると、極端に言えば牧野植物大学をつくるくらいの発想があっても良いかもしれない。

そして、それらを通じた社会貢献として憩いの場という考え方についてもしっかり全体の3つのミッションがインディペンデントなのか従属なのか、何に対して従属しているのかということを確認すべきではないかと思う。さもないと、KPIとしての20万人が独

り歩きして、結局 DMO をつくればよいという観光振興の一環に位置づけられると人材育成とか研究の柱に対する投資効果が全く期待できない。そのあたりの関係をどのようにするかというそもそも論を議論すべきである。

牧野記念財団の理事会において、アクセスが悪いなかで年間 14 万人の来園者は立派という意見がある。それを 20 万人にする。これが将来的に研究、教育を通じた普及をさらに加速化するうえで必要とするならばしっかりと理解できるが、単に 14 万人を 20 万人にすることが何の意味があるのか、本末転倒の議論にしないようにすることが必要。

(K 委員)

子育て目線から話をしたい。委員の話をいただいたときに、高知県民が牧野植物園に行つてほしいと思えるようなそんな場所であつてほしいということを思った。そこで疑問に思ったのが、高知県民はどれほど牧野植物園、牧野博士のことを知っているのかということ。周りの人には牧野植物園に遠足以来行ったことがない、あるいは転勤族の方では行ったことがない人が多くびっくりした。

子育て家族にとって牧野植物園はしんどい場所。南門から駐車場まですごく遠いうえに、途中抜ける場所もない。トイレも少ない。子育て家族だけでなく、高齢者や障害のある方にとつても優しくない場所。反対の見方をすれば歩くという意味では健康的な場所かもしれない。

きれいな場所なので、子どもが植物をちぎったり乱したらどうしようと躊躇するという意見が周りのお母さんからもあるので、安心して葉っぱをちぎったり触れる場所があるともっと来園しやすいと思う。

植物に興味のない家族でも、遊具があると来園のきっかけになるのではないか。植物や虫の形の遊具等、遊び感覚で植物に興味をもってもらうきっかけづくりの工夫が必要ではないか。ジブリの作品の借りぐらしのアリエッティのような、自分が小さくなった感覚で植物や昆虫を見られる部屋があれば親子で楽しめるきっかけづくりになるのではないか。

キッズニア（子ども職場体験テーマパーク）のように子どもたちが研究者の体験ができるとよい。子どもも興味を持てるし、その中から第 2 の牧野博士が誕生するかもしれない。

五台山の展望台は夜のデートスポットである。牧野植物園はムードがあるので、月に一度だけでも夜間開園すれば若い人が足を運ぶきっかけになる。

来園者が体験して感動できる植物園になったら良いと思う。

(邑田委員長)

一通り話していただいたが、他の方の発言を聞いて何か意見はあるか。

(J 委員)

K 委員から「借りぐらしのアリエッティ」の話がでたが、要は見せ方だと思う。牧野文

庫の貴重な書籍等をいかに多くの方に見せるか。しっかり見せると大きな反響（インパクト）がある。おそらくヒントはVRであり、そのアーカイブをどうするか。VRをいろんな角度、相対的比率でバーチャルリアリティをつかって全てのものに対してアクセスをしていく。そうすることで植物園の価値がさらに顕在化し最大化されると思う。

（B 委員）

委員の皆さんの意見が聴けてうれしく感激した。J 委員の意見は大局的にまとめられていたと思う。

私は憩いの部分について話したが、3本柱が分裂して検討が進むのはよくない。3本柱の課題を一気に解決できる1つの大きくシンプルなコンセプトを考える道が残されているのではないか。一番ヒントになったのは、I 委員より発言のあった、命を考える五台山。世界に類を見ない宗教と植物の真理を考えるテーマパークならばそこには知りたいことがたくさんあるので、宿泊施設はあるべきとか。

ホテルをつくるというのはとても良い案だと思う。しかもそのヒントが F 委員の話にあった、宿坊というのは五台山の歴史として真つ当であるし、I 委員の話は非常に深い。「命を考える世界唯一のテーマパーク 植物の命とともに、しかも秘宝いっぱい。全て公開して命の秘密を知りませんか。」とか。

植物標本に水を含ませると花が開くと聞いてすぐに広告にしたいと思った。これは牧野博士が作られたタイムマシーンである。緑が劣化するのではなく、これから標本をつくる時に、VR や 3D プリンターといった科学の力で牧野博士が志したタイムマシーンをもっと進化させればよい。

命を考える秘密のテーマパークといったように大きく構えて世界の人に来てもらいたい。

3本柱を一気に解決できる新しいコンセプトを出せたらよいと思う。

（邑田委員長）

次回の議論に向けてのまとめとして出たコメント等を述べたい。

複数の方から宿泊施設の話が出た。

牧野の研究施設としての価値は資料をたくさん持っていること。資料をよりよく使ってもらおう仕組みづくりが必要。

五台山に滞在して研究をできること。

学生実習の受け入れ。

植物園の利用に加え、近隣の自然探索。

ミャンマー等の外国人研究者も滞在できるように。

大きな会議室によるセミナーや勉強会の実施。

宿泊施設については災害時に避難所として利用できる。

宿坊については、ホテルのようなサービスを充実させたものがよいのか、自炊できる施

設がよいのかアイデアが出ると思う。

子どもたちが楽しめる広場を繁忙期には駐車場として使用する構想があってもよいのではないか。

修学旅行受け入れ時には専門ガイドが必要かと思われる。

次回の検討委員会においては、牧野植物園からもアイデアを出してほしい。

5 閉会

- ・ 指定管理者から行事・イベントのお知らせ
- ・ 事務局から第2回検討委員会の日程及び進行について説明
- ・ 林業振興・環境部 副部長（総括）から閉会のあいさつ